

くまもと県北病院に通院中または過去に通院・入院された患者さままたはご家族の方へ当科における臨床研究にご協力をお願いいたします。

令和8年 3月 18日

「加速度センサ等のツールを用いた歩行・起立・着座動作における評価の有用性」に関する研究を実施しています。

くまもと県北病院倫理委員会の審査による承認を得て、上記研究を実施しています。
この研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされています。

倫理審査承認番号	2020-012 202606
課題名	加速度センサ等のツールを用いた歩行・起立・着座動作における評価の有用性
所属（診療科等）	くまもと県北病院（診療技術部 リハビリテーション技術科）
研究責任者	林田 史久
研究実施期間	令和2年11月～ 令和10年12月まで
研究の意義・目的	脊椎椎体骨折や大腿骨近位部骨折等の運動器疾患患者は高齢社会において増加の一途をたどっています。理学療法を実施するにあたり、自宅復帰に向けたADL（Activities of Daily Living）の向上が目標の一つです。ADLや転帰に影響を与える指標として歩行能力が報告されています。加えて、起立・着座動作は移動の前・後段階であり、ADL向上を図る上で極めて重要な基本動作です。近年、筋電図計、床反力計、加速度センサなどにおける技術発展の恩恵を受けて、運動学的、運動力学的指標を用いた研究が多く報告されています。動作分析のツールの1つに加速度センサがあり、装着が容易で計測場所の制限も少なく、臨床において簡便な評価ツールです。本研究の目的は運動器疾患患者における退院前の歩行・起立・着座能力を客観的に評価すること、その有用性を検討することです。さらには有用性を明らかにすることで適切な評価・介入につなげることです。
対象となる方	脊椎椎体骨折・大腿骨近位部骨折等の運動器疾患患者 （研究データ収集期間は令和2年（2020年）12月～令和5年（2023）の2月）
利用する診療記録・検体	性別、年齢、身長、体重、BMI（Body Mass Index）、握力、FIM（Functional Independence Measure）、10m歩行速度、疼痛評価（Pain Self-Efficacy Questionnaire等）、Short Physical Performance Battery（SPPB）等

研究方法	回復期病棟に入棟された対象となる方に説明と同意を確認後、診療記録の収集と加速度センサを用いた基本動作のデータ計測を実施する。
問合せ先	所 属：くまもと県北病院 診療技術部 リハビリテーション科 氏 名：林田 史久（理学療法士） 連絡先：0968-73-5000

●診療記録、検査結果を研究、調査、集計しますので、新たな診察や検査、検体の採取の必要はありません。

●当院外へお名前や個人情報がでることはありません。

●必要な情報のみを集計します。

研究成果は今後の医学の発展に役立つように学会や学術雑誌で発表しますが、患者さまを特定できる個人情報は利用しません。

●この研究にご自分の診療記録等を利用することをご了承いただけない場合、またご不明な点については上記問合せ先までご連絡くださいますようお願いいたします。

●研究不参加を申し出られた場合でも、何ら不利益を受けることはありません。

ただし、同意取り消しの申し出をいただいていた時、すでに研究成果が論文などで公表されていた場合や試料や情報が匿名化されて個人情報が全く特定できない場合などには結果を廃棄できないことがあり、引き続き使用させていただくことがあります。